



フレッド・カブリ氏はノルウェー生まれのアメリカ人、人間に対して研究や教育がもつ長い目で見たインパクトを支援したい、と強い決意を持った物理学士、実業家、ビジネス・リーダー、イノベーター、そして篤志家です。カブリ氏はノルウェー工科大学で物理学の教育を受け、第二次大戦中ティーンエイジャーでありながら兄弟と一緒にやったビジネスの収益で学業を終えることができました。1955年に学位を取るとすぐカナダへ発ち、そして翌年アメリカ合衆国に來ました。カリフォルニアに二年間住んだ後、実業家精神を発揮し、

ティーンエイジャー時代の経験を生かして、ロスアンジェルスにカブリコ株式会社を設立、後に同じカリフォルニアのムーアパークに移転しました。彼のリーダーシップで会社は航空、自動車、その他の工業に使われるセンサーの世界最大サプライヤーの一つに成長しました。カブリコは多くの名誉な賞を受賞、カブリ氏は数々の技術的なブレークスルーで特許を取りました。2000年に自分の持ち分を売却するまで、氏はカブリコのCEOで、ただ一人の株主でした。

その後氏はカブリ財団とカブリ経営協会（今はカブリ財団と合併）を設立し、世界の人々の生活の質向上を目指し、科学研究を支援しています。財団は世界のトップの大学に研究所を設立し、科学シンポジウムやワークショップのスポンサーになり、宇宙天体物理、脳科学、ナノサイエンスでの業績を称える国際賞を（ノルウェー科学人文アカデミーと協力して）設立しました。カブリ氏はカリフォルニア大学サンタ・バーバラ校の工学部に基金を拠出し、ナノテクノロジーと、光電子工学・センサーの二つのフレッド・カブリ教授を設けました。またコロンビア大学の脳科学、カリフォルニア大学アーバイン校の地球システム科学、カリフォルニア大学ロス・アンジェルス校(UCLA)のナノサイエンス、カリフォルニア工科大学（カルテク）の理論物理学にも冠教授職を設けています。

カブリ氏と財団は世界のトップの大学で研究所を支援しています。コロンビア大学、イェール大学、カリフォルニア大学サン・ディエゴ校、ノルウェー科学技術大学の脳科学研究所、カリフォルニア工科大学、コーネル大学、ハーバード大学、デルフト工科大学のナノサイエンス研究所、スタンフォード大学、シカゴ大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)、ケンブリッジ大学、北京大学の宇宙天体物理研究所、そしてカリフォルニア大学サンタ・バーバラ校と中国科学院の理論物理学研究所のスポンサーになっています。



カブリ氏はアメリカ芸術科学アカデミーのフェローです。氏はノルウェー科学技術アカデミーのメンバーであり、米大統領の科学技術諮問協議会のメンバーでした。カリフォルニア大学学長の科学とイノベーションの協議会のメンバーだったこともあり、現在はカリフォルニア大学サンタ・バーバラ校財団の理事です。また、国への多大なる貢献に対してノルウェー王室の勲章を受勲、2008年にはノルウェー科学技術大学の名誉学位など多く

の榮譽を受けています。更に2009年にはノースウェスタン大学の名誉博士号、2011年にはアメリカで一番伝統のある科学教育センターの一つであるフランクリン協会がビジネス・リーダーに贈るバウアー賞、カーネギー篤志家賞（これはアンドリュー・カーネギー自身のように、個人の資産を公共の目的に捧げ、篤志家として人々に感銘を与える活動を続けた人に、各年で出される賞）を受賞。同じ2011年にはオスロ大学の名誉博士号も受けています。科学研究や教育だけではなく、フレッド・カブリ舞台芸術劇場（カリフォルニア、サウザンド・オークス市）なども支援しています。

過去の報道の例

- Financial Times, "[The Men with the Formula for Giving to Science](#)" (July 13, 2009)
- Los Angeles Times, "[Awards intended to spark research](#)" (May 27, 2008)
- Forbes Online, "[The Man with the Million-Dollar Prize](#)" (May 16, 2008)
- Time Magazine, "[The Next Nobel?](#)" (August 2, 2007)
- Symmetry, "[Donors dream big](#)" (August, 2007)
- The Associated Press, "[Kavli strives to leave mark on science](#)" (November 13, 2006)
- Scientific American, "[Scientific American 50: Policy Leader of the Year](#)" (November 21, 2005)
- Scientific American, "[He'll Pay For That](#)" (July, 2005)
- The New York Times, "[A Philanthropist of Science Seeks to Be Its Next Nobel](#)" (April 19, 2005)